

VMWare 仮想 なプレイヤー 12 で 1 つに CPS を 10.1.0 すべてインストールして下さい

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[手順](#)

[確認](#)

概要

この資料は VMware ワークステーション プレイヤーで 1 (AIO) ソリューションに Cisco Policy Suite を (CPS) すべてインストールするためにプロシージャを記述したものです。

前提条件

要件

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Microsoft Windows. を実行するコンピュータ プロシージャは MAC OS のための小さいバリエーションと同様に適用します。
- VMware ワークステーション プレイヤー ソフトウェア (MAC OS のための VMware Fusion) の VMware ワークステーション
- ホスト マシンで利用可能 な少なくとも 4GB RAM (よりよい 8GB)
- 4 つの利用可能 な CPU コア。
- 2 つのバーチャルネットワーク インターフェイス (それはネットワーク アドレス変換 (NAT) およびホストだけバーチャルネットワークを使用することは良いです)

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用されるすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

背景説明

そのような配備ソリューションを自体は、トレーニング目的でまたは試作期間機能テストのため

のラボとして詳しくなって役立ちます。

プロシージャは CPS バージョン 10.1.0 に適用されましたり、他のバージョンのためにまた適応することができます。 特定の手順があるように公式 ドキュメンテーションを確認して下さい。

手順

ステップ 1. cisco.com から CPS ソフトウェアを、即ち **CPS_10.1.0.release.iso** および **CPS_10.1.0_Base.release.tar.gz** ファイル ダウンロードして下さい。

ステップ 2.抽出。 **CPS_10.1.0_Base.release.tar.gz**。 あなたの中で **base.vmdk** ファイル (VM ディスクイメージ) を見つけなければなりません。 これは VirtualMachine (VM) のためにハードドライブとして後の手順で使用されます。

ステップ 3. CentOS 64 ビット型の新しい VM を作成して下さい。 以降を削除できる非常に小さいハードディスクドライブ (HDD) を選択しました。

ハードウェアをカスタマイズして下さい、そうすれば管理のための内部のための 2 Network Interface Controller がカード (NIC)、1 および 1 含まれています。

これ VM 設定を編集する方法:

- 少なくとも 4GB RAM を追加して下さい。
- 4 つの CPU コアを追加し、**仮想化 Intel VTx/EPT か AMD-V/RVI オプション**を有効にして下さい。
- バーチャル CD-ROM で **CPS_10.1.0.release.iso** を挿入して下さい。
- 古い HDD を取除いて下さい。
- 次の通り HDD としてより早いダウンロードされた **base.vmdk** ファイルを追加して下さい:
 - 仮想マシン設定エディタを (**VM > 設定**) 開き、『Add』をクリックして下さい。 追加 Hardware Wizard はステップによって仮想ディスクを作成するためにガイドします。
 - **ハードディスク**をクリックし、そして『Next』をクリックして下さい。
 - **使用を既存の仮想ディスク**選択し、そして『Next』をクリックして下さい。
 - 既存のディスク ファイルのためのパスおよび**ファイル名**を入力するか、または**ファイルにナビゲート**するために『Browse』をクリックして下さい。
 - [OK] をクリックします。

注: ハードディスク サイズは 100GB ですが、実際により少しを大いに占めます (それはダイナミック サイズです)。

- VMWare プレイヤーを閉じ、VM が作成されたフォルダの方に参照して下さい (**C:\Users\\文書\仮想マシン**のような何かはある必要があります)
- テキストエディタとの **.vmx** ファイルを開き、8 にここにリストされているように **virtualHW.version** を修正して下さい:

```
virtualHW.version = "8"
```

- ファイルを保存し、VM を起動して下さい。

注: このメッセージはクラスタ マネージャ VM コンソールで報告されることがあります。
このメッセージ「精査 EDD (デイセーブルにするべき edd=off) 無視」をできます。

起動し、提供しますログインプロンプトを CPS までのおよそ 10 分かかる場合があります。それが利用可能である時、`root/cisco123` のログイン。

ステップ 4. ネットワーク設定を設定して下さい。

次の通り `cfg-eth0` の修正によって LAN (エイリアス private) に `eth0` インターフェイスを割り当てて下さい:

```
DEVICE=eth0
TYPE=Ethernet
ONBOOT=yes
NM_CONTROLLED=no
IPADDR=192.168.119.200
NETMASK=255.255.255.0
```

次の通り `cfg-eth1` の修正によって別の LAN (エイリアス パブリック) に `eth1` インターフェイスを割り当てて下さい:

```
DEVICE=eth1
TYPE=Ethernet
ONBOOT=yes
NM_CONTROLLED=no
IPADDR=172.16.1.200
NETMASK=255.255.255.0
```

IP アドレスが VMware プレイヤーで接続する仮想 な ホスト アダプタに関連付けられる IP アドレスと一直線に設定されるようにして下さい。

(ここに描写される) たとえば最初のインターフェイスが 192.168.119.0/24 ネットワークの一部で設定される VMware ネットワークアダプタ VMnet 8 に接続されれば、そしてこの範囲から選択しました IP アドレスをなります。

Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:

```
Connection-specific DNS Suffix . :
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . :
```

/etc/init.d/network 再始動のネットワークングを再起動して下さい。

この場合マシンにセキュア シェル (SSH) できます。

ステップ 5. SSH およびパブリックアドレスの使用の **ルート ユーザ** として VM へのログイン (または VM コンソールによって) 。

/etc/hosts のクラスタ マネージャの `eth0` プライベート IP アドレスを編集して下さい/追加して下さい。

次に、例を示します。

```
Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:
```

```
Connection-specific DNS Suffix . . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

ステップ 6. Rivest シャミールAddleman (RSA) 公開キーをアップデートして下さい:

```
Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:
```

```
Connection-specific DNS Suffix . . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

ステップ 7. CD/DVD からの ISO をマウントして下さい:

```
Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:
```

```
Connection-specific DNS Suffix . . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

注: install.sh コマンドが /mnt/iso で利用できるかどうか確かめて下さい。

install.sh コマンドが利用できない場合、これらのステップを実行して下さい

- **CPS ISO をアンマウントして下さい:**

```
Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:
```

```
Connection-specific DNS Suffix . . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

- **CD/DVD からの ISO をマウントして下さい:**

```
Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:
```

```
Connection-specific DNS Suffix . . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

ステップ 8. すべての CPS コンポーネントが単一 VM でインストールされているところで AIO 配備をインストールするために、「AIO」であるためにこのノードを設定して下さい:

```
Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:
```

```
Connection-specific DNS Suffix . . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

ステップ 9. ISO ディレクトリから **install.sh** スクリプトを実行して下さい:

Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:

```
Connection-specific DNS Suffix . . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

インストール型のためにプロンプト表示された場合、**モービル**を入力して下さい。

ステップ 10 環境を初期化するためにプロンプト表示された場合 **y**.を入力して下さい。

インストールの種類のためにプロンプト表示された場合、**1**つを入力して下さい (新しい配備)。

システム構成は正しいこと **install.sh** 完了が、検証する時、このサーバのホスト名に関して:

Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:

```
Connection-specific DNS Suffix . . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

ホスト名変数の値をチェックして下さい。通常この値はラボに設定されます、代替ホスト名ははたらくことができます。この値を修正したら-VM を再起動して下さい

ステップ 11. CPS の初期設定をやり直すためにこのコマンドを実行して下さい。

Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:

```
Connection-specific DNS Suffix . . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

注: reinit.sh は AIO のパペットを実行し、またうまく実行されるかどうか確認します。作成者の最初試験を使って、切断される SSH セッション。VM コンソールでそれを直接することがより適切です。

手順 12 : **/etc/broadhop.profile** ファイルの AIO で設定されるべきノードをチェックして下さい。AIO であることを設定しない場合明示的に AIO であるためにこのノードを設定して下さい:

手順 13 : システムに適切なコンフィギュレーションを適用するために設定 スクリプトを実行し

て下さい:

```
Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:
```

```
Connection-specific DNS Suffix . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

手順 14 : 設定を送達し、CPS を再起動するこれらのコマンドを実行して下さい。

```
Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:
```

```
Connection-specific DNS Suffix . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

restartall.sh スクリプト プロセスはどちらかの Y/N がプロセスを再起動することができるようにプロンプト表示します。プロセスを再起動するために Y を入力して下さい。

手順 15 : コントロール センターのためのパスワードを変えて下さい。 **change_passwd.sh** スクリプトを実行して下さい。これが新しいインストールであるので、**change_passwd.sh** スクリプトを実行する前に、PATH の **broadhop** スクリプトのソースをたどるために出典 **/etc/profile.d/broadhop.sh** を実行して下さい。これは初めてだけに適当です。

ステップ 16。 grafana ユーザを追加して下さい。

ビューだけアクセスのユーザを追加して下さい:

```
Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:
```

```
Connection-specific DNS Suffix . :  
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2  
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1  
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0  
Default Gateway . . . . . :
```

注: grafana についての詳細は公式 ドキュメンテーションで見つけることができます。

確認

このセクションでは、設定が正常に機能していることを確認します。

この時点で、クラスタ マネージャ ノードはオールインワン サービスを提供するために正しく設定されます。

ステータスを下記のもの確認して下さい:

```
Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:
```

```
Connection-specific DNS Suffix . :
```

```
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . :
```

[FAIL]そこにリストされています確認しないで下さい

すべてのアプリケーションを確認するために、コマンドを実行して下さい:

```
Ethernet adapter VMware Network Adapter VMnet8:
```

```
Connection-specific DNS Suffix . :
Link-local IPv6 Address . . . . . : fe80::44b7:6018:90d7:b716%2
IPv4 Address. . . . . : 192.168.119.1
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . :
```

とりわけ (ソフトウェア バージョンのように)、それらにアクセスするために AIO および URL で動作するすべてのサービスのリストを入手します。